

【参考資料】

本資料は2006年11月6日（米国時間）にAT&Tが発表したリリースの抄訳です。
原文は<http://att.sbc.com/gen/press-room?pid=4800&cdvn=news&newsarticleid=23077>に掲載されています。

2006年11月8日

AT&T がインドで新しい事業を開始 ～法人向けに通信サービスを提供～

【2006年11月6日 インド・バンガロール発】AT&T Inc. (NYSE : T) とマヒンドラ・テレコミュニケーションズ・インベストメント (Mahindra Telecommunications Investment Private Limited) との合弁会社である AT&T グローバル・ネットワーク・サービス・インド (AT&T Global Network Services India Private Limited、以下 AT&T インド) は、本日の記者会見で新しい事業の開始を発表しました。

インド政府は 2005 年 11 月にインド国内企業における外国資本を最大 74%まで認めるという新たな海外直接投資 (Foreign Direct Investment : FDI) 政策を制定しました。この政策により、AT&T は先ごろ外資系通信事業者として初めて新しい通信事業者免許を取得していました。

「先月、当社がインド国内の外資系通信事業者として初めて、新しい事業免許を取得しました。そのわずか 3 週間後に、こうして新事業の発足を発表できることは、この上なく喜ばしいことです。インドは世界で最も急成長し活気に満ちている通信市場の一つです。当社の主要な多国籍企業のお客様は異口同音に、インドに拠点を置く必要性を語っています。AT&T はすでに VSNL との協業のもと、6 年以上にわたってインドで事業を展開し、成功を収めてきました。今回の新たな通信事業者免許の取得により、インドでの事業展開を検討しているグローバルなお客様への当社の支援をさらに強化することが可能になりました。AT&T は幅広い先進的なネットワーク・サービスおよびソリューションをより迅速にお届けし、現在世界の経済圏の 97%にサービスを提供している AT&T のグローバル・ネットワークにインドを完全に統合できるようにしていきます。」

AT&T グローバル・セールス シニア・バイスプレジデント
ジョン・フィネガン (John Finnegan)

本日の事業発足イベントに出席した、AT&T アジア太平洋地域諮問委員会 (AT&T Asia Pacific Regional Advisory Council) の会長で、産業ガス最大手の国際企業であるエアプロダクツ・アンド・ケミカルズ社 (Air Products and Chemicals, Inc.) のグローバル IT ソーシング・マネージメント・オフィス責任者のバージル・パーマー (Virgil Palmer) 氏は、「新体制は我々、AT&T の顧客に格段の簡素化と効率性の向上という大きな恩恵をもたらすことになる。」と語っています。

また、「AT&T アジア太平洋地域諮問委員会の会長として AT&T の大企業顧客を代表して申し上げますが、AT&T と直接協業できるようになったことを非常に嬉しく思います。これが品質および信頼性の飛躍的な向上をもたらすとともに、商談、契約、請求処理といった分野の簡素化につながると確信しています。ほとんどのグローバルな多国籍企業にとって、インドは最優先の市場です。今回の事業開始が大きな契機となり、インドにいつその海外投資が集まり、発展がもたらされると信じてやみません。」と、続けています。

調査・コンサルティング企業であるオーバム (Ovum) のリサーチ・ディレクター、マイク・キャンズフィールド (Mike Cansfield) 氏は、AT&T が米国で力をつけるとともに、グローバルでの存在感を拡大していること、とりわけ世界の製造および IT サービスの中心地での AT&T の独自の地位に言及して、次のように述べています。「今回の事業開始で新生 AT&T

は特筆すべき存在になります。また、情報通信技術セクターにとってもこれは大きなニュースです。」

AT&T は新事業発足の記念の一環として、2006年11月6日から10日まで、1週間にわたりお客様セミナーおよびイベントをバンガロール、ハイデラバード、ムンバイ、チェンナイ、デリーの各都市で開催します。また、事業開始に合わせて、大々的な広告キャンペーンも行います。

AT&Tは2001年よりAT&Tグローバル・ネットワークへの投資を続けており、現在では世界137ヶ国でMPLSベースのIPサービスへのアクセスを提供しています。インドや中国など主要国での通信事業者免許の取得に加え、AT&Tは2006年内にマレーシア、ベトナム、パキスタン、キプロス、ドバイ、サウジアラビアでさらなるネットワーク拠点の設置を完了します。さらに新たなネットワーク相互接続により、ベトナム、ロシア、スカンジナビア諸国、ブラジル、アゼルバイジャン、グルジア、カザフスタン、ウズベキスタンに、より大規模のアクセスを提供します。

###

AT&Tについて

AT&T Inc.は米国内最大、そして世界でも屈指の通信事業持ち株会社です。AT&Tブランドのもと、グローバルに事業を展開するAT&T企業グループは、企業向けIP通信サービスで世界的な主要事業者であるだけでなく、高速DSLインターネット、市内および長距離通話、電話帳出版および広告サービスにおける米国最大の事業者です。AT&T Inc.は、米国随一の携帯通信事業者として5,870万の顧客を擁するシンギュラー・ワイヤレス社 (Cingular Wireless) の株式を60%保有しています。AT&T Inc.ならびにAT&Tのサービスに関する詳細はwww.att.comをご覧ください。

© 2006 AT&T Knowledge Ventures. All rights reserved. Subsidiaries and affiliates of AT&T Inc. provide products and services under the AT&T brand.